

新型コロナ感染症

予約開始からの混乱を経て…

5月11日から新型コロナワクチンの接種予約が始まりましたが、回線の混雑をはじめ、大変ご不便をおかけしました。事態を鑑み、私たちは接種予約に係る要望を提出し、**1回目の接種予約と同時に2回目接種予約も可能となりました**。その後も電話回線数が44回線へと倍増されたり、予約手段による有利不利が生じないような配慮がなされるなど、市民の皆様のお声によって状況が改善してきています。今後も引き続き接種希望者が安全かつ円滑に接種できるよう、取り組んでまいります。

ワクチン接種体制について

ワクチン接種は国から供給される量により優先順位を決めてスタートしました。**1.医療従事者等、2.高齢者、3.基礎疾患を有する方や高齢者施設等で従事されている方**という順番でしたが、その一方で小中学校、保育園、学童保育所、児童館など子どもに関わる職員や高齢者等の在宅支援のヘルパー等は感染防止対策として急いで接種する必要がありました。また、障がい者の方たちの接種負担の軽減のため集団で接種を受ける体制も必要だったので、厚生産業委員会等で求めてきました。

医療関係者と行政の連携で立川市主体の「**職域接種**」という形で「子ども業務・福祉業務部門」の人たちの接種体制が整備されました。駅近くの会場でモデルナワクチンの接種が始まっています。また更に接種を加速させるべく、**柴崎体育館における3,000人規模の集団接種**も始まり、駅前からの送迎バス運行や会場の暑さや雨天時対策などの環境改善が実現しました。

ワクチンに関する現状

接種券の発送は7月26日で全て完了。接種券が届いたら立川市で予約、または自衛隊での接種予約も可能です。

(※ 但し19歳～40歳未満の方の予約開始時期は未定(7月27日時点))

(※ 12歳～17歳は個別接種のみ。接種可能病院リスト参照)

接種状況

立川市では、当初より在宅療養者への配慮等もされました。接種率は右表において**多摩地域で2番目**と報道されました。本来接種は国、都が主体となるべきものですが、ワクチン確保や接種が自治体任せとなっており、自治体間で接種率や体制に格差が生じています。こうした体制も改善が必要です。

接種状況(7月26日時点)

対象者	接種回	接種対象者数	接種人数	接種率
65歳以上	1回目	約4.55万人	37,798人	83.1%
	2回目		30,532人	67.1%
12～64歳	1回目	約12.2万人	9,094人	7.5%
	2回目		1,086人	0.9%

ワクチン確保状況

自治体が接種主体となる「職域接種」は先進的な取り組みです。仕事帰りの接種がしやすいように、駅近くに会場を設け、**障がい者就労施設で働く職員や障がい当事者の方たちも接種できる体制になりました**。

ワクチン(ファイザー社)確保状況

クール	出荷状況	納品箱数	接種対象者人数(回)
1,2	なし	-	0
3～9	4月～7月	119	135,330
10	7/19～7/26	11	12,870
合計			148,200

※なお、「第10-2クール」として122箱(142,740回分)出荷するとされているが、日程等は未定(7月9日時点)

職域接種用ワクチン(モデルナ社)確保状況

接種会場	ワクチン納品状況	接種対象者数
多摩信用金庫本店	6月28日	1,500
多摩信用金庫本店	7月7日	2,500
女性総合センター	7月7日	2,000

※35,000回分の供給決定を受けているものの、今後の変更の可能性もあり(7月9日時点)



職域接種会場にて

最後に…

これまで感染症対策に尽力されてきた医療関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。7月末以降、**1日の感染者数は過去最高記録を更新しています**。医療崩壊や感染拡大が懸念される五輪開催には今も不安視しています。

コロナ感染により水面下の課題があちこち浮き彫りとなっています。地域医療における都と市と医療関係者の連携が重要であることを改めて実感しました。医療崩壊を食い止めるべく、今後も保険医療、感染症対策の在り方も自治体からボトムアップを目指していきます。

また、あくまで接種は個人の任意によるもので、本ニュースもワクチン接種を勧奨するものでもありません。個人の意思は尊重するのが大前提です。**低年齢の接種については適切な情報把握が必要**ですが、各自がリテラシーを持って適切な判断をしていくべきだと考えています。